

市立豊中病院では、医療の高度化・専門化に対応し患者サービスの向上を図るため、診療科再編など、組織体制の見直しを行います。



新型コロナウイルス感染症への取組み



ワクチン接種準備



感染症患者の診療の様子



UV消毒ロボット



感染症病棟の様子



代替ガウンの作製



オンライン面会



新興感染症受入れ訓練

基本理念

豊中市の中核病院として『心温かな信頼される医療』を提供します。

基本方針

- 1 患者さんの立場に立った心温かな病院をめざします。
- 2 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
- 3 医療機関等との連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
- 4 少子高齢社会に対応する医療を推進します。
- 5 病院職員の教育・研修の充実を図ります。

大規模災害対策訓練

開催日: 令和4(2022)年10月29日(土)



南海トラフ大地震を想定した訓練を実施しました。病院職員173人が参加し、本番さながらの実践訓練に取り組みました。

夏休みキッズ 感染予防セミナー

開催日: 令和4(2022)年8月2日(火)

市内小学5~6年生を対象として、2年ぶりに開催しました。消毒ロボットの操作や口の中の細菌を顕微鏡で観察するなど、楽しみながらしっかりと学びました。



細菌の形が人によって違う!!



新興感染症受入れ訓練

開催日: 令和4(2022)年11月16日(水)

地域の医療機関や豊中市保健所と合同で新興感染症受入れ訓練を実施しました。実際の対応の流れをリアルタイムで行い、参加者で課題解決に向けた検討を行いました。

※新興感染症とは、かつて知られていなかった、この20年間に新しく認識された感染症で、局地的あるいは国際的に公衆衛生上問題となる感染症。



市立豊中病院は、第二種感染症指定医療機関として、令和2年(2020年)2月から、新型コロナウイルス感染症の診療を行ってきました。

今回は、3年間行ってきたコロナ診療について特集します。

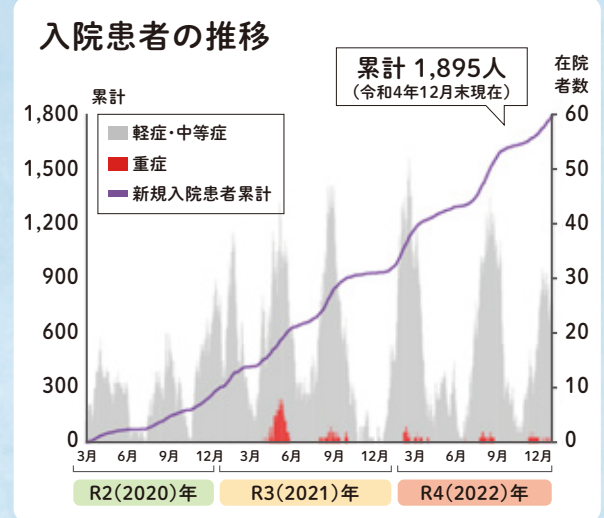


1 新型コロナウイルス感染症と市立豊中病院の3年間

病床数は、感染の動向に合わせて変更し、最大68床でした。



2 数字でみる市立豊中病院の記録



妊産婦・小児・人工透析患者が感染した場合に受け入れが可能な病院は限られており、積極的な受け入れに取り組んできました。当院の令和2年度の分娩症例数は、大阪府下で2番目でした。

妊産婦・小児・人工透析患者数	令和2年度	令和3年度
妊産婦入院受入数(うち分娩数)	20(6)人	45(17)人
小児入院受入数	25人	105人
人工透析・維持透析患者数	25人	29人

3 コロナ禍でいのちを守る人たち

最前線でコロナと戦っている先生や看護師さんにお話を聞いてきました！



感染対策室 感染対策を徹底したコロナ対応

令和2年2月に横浜港停泊中の客船内で発生した新型コロナウイルス感染者を受け入れ、当院の感染症の診療が始まりました。当初は、ウイルスに関する情報が少なく、感染対策室は主導となって感染対策を徹底し、受入体制を整えました。

ナッジ（行動科学理論）を活用した感染予防と定期的な点検を行っています。また、市内施設への訪問、地域の医療従事者や施設職員へ感染対策の周知に努めています。



「UV消毒ロボット」で隅々まで確実に消毒しています。

こども園へ訪問

産婦人科 コロナ陽性妊婦の自然分娩に取り組む

「地域周産期母子センター」として、大阪府下のコロナ陽性の妊婦さんを受け入れました。感染流行初期から感染症病棟内に分娩室を設置し、可能な限り自然分娩に取り組んできました。



無事にお母さんが新生児を抱くことができたときは、大変だったコロナ診療の中で、頑張りが報われたと感じられた瞬間でした。

辻江産婦人科部長



感染症病棟内分娩室

コロナ感染症病棟 北摂で唯一の感染症指定医療機関として

ウイルス変異株や治療薬に関する最新の情報を入手して、診療内容・感染対策をその都度見直しています。



森村呼吸器内科医長

川原看護師長



小児科 入院中の子どもの世話が困難に

家族で入院し、両親が重症化した場合、子どもの世話が困難になったり、回復した子どもを退院させることができないという問題が起きました。退院先を探すなどの退院調整を行い、臨機応変に対応しました。



腎臓内科・人工透析室 感染流行初期の透析患者の受け入れ

感染流行初期には、近畿の透析症例の実に5分の1を当科で対応しました。



竹治腎臓内科部長